

がん登録データによる早期発見の促進

P4-04

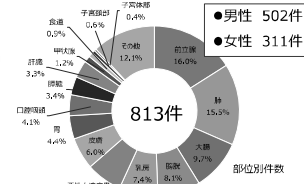


地方独立行政法人 くまもと県北病院
前田 優里

当院の概要

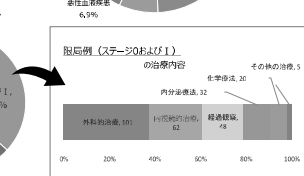
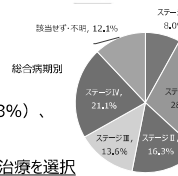
■ 病院の特色とがん診療の提供体制

- ・熊本県北地域における中核病院としての地域医療の提供。
- ・「がん診療連携拠点病院」としての機能。
- ・緩和ケアの実施（病棟未設置地域における地域連携による対応）。
- ・在宅医療を支えるバックアップ機能と、ダブル主治医制・訪問診療による地域密着型ケアの提供。
- ・健康管理センター併設によるがんの早期発見への取り組みの強化。



■ がん症例の登録状況 (2023年)

- ・2023年症例がん登録件数: 813件 (男性502件、女性311件)
- ・主ながん種別: 前立腺がん130件、肺がん126件、大腸がん79件
- ・病期別登録割合: ステージ0 (8.0%)、I (28.9%)、II (16.3%)、III (13.6%)、IV (21.1%)、該当せず・不明 (12.1%)



★限局例 (ステージ0・I): 全体の約4割、その約3分の2が観血的治療を選択

目的

- がん登録を報告にとどめず、「届け方・活かし方」に着目して活用方法を検証。
- 新たな取り組みとして、登録情報を「地域支援に活かす」視点から行政との連携体制を構築し、地域住民に必要ながん情報を的確かつ効果的に届ける工夫とその実践。
- これまでの活動を通して見えてきた課題と、今後のがん登録のあり方を検討。

方法

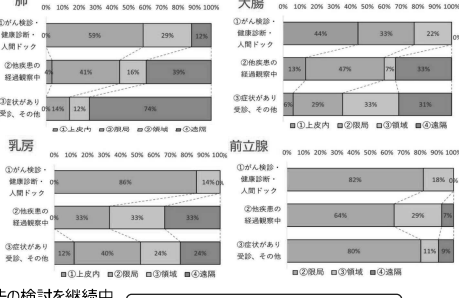
- ① 地域の方への情報発信と啓発活動
 - 「がんの早期発見の大切さ」を届けるリーフレットを作成。
 - 病院フェスタのブース出展での活動。
- ② 地域とのつながりを深める取り組み【行政との情報共有】
 - 登録データをもとに、がんの傾向や特徴をまとめて行政へ報告。
 - がんに関わる支援や情報提供を行う場に参加し、意見交換を行う。
 - 若年がん患者の実情の共有と支援に向けた情報提供。

結果

① 地域の方への情報発信と啓発活動

- 当院で罹患数の多いがん種に着目したリーフレットの作成と配布
 - 地域住民に向けて、がんの早期発見の重要性を伝えるための情報提供を実施。
 - 定期的な情報提供が、住民の意識向上につながることを再認識。
- 病院フェスタでの乳がん啓発ブースの設置
 - 配布資料の受け取り状況から、乳がん検診への関心の高まりを実感。
- 現在も継続しているリーフレット配布活動、啓発資料のレイアウトや表現の工夫
 - 早期発見が生存率に関わることを視覚的に伝え、理解を促進。地域の声を取り入れながら、より効果的な啓発方法の検討を継続中。

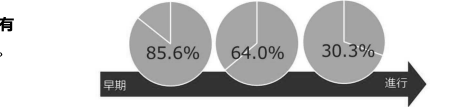
がんの発見経緯と病巣のひろがり



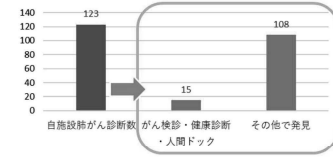
② 地域とのつながりを深める取り組み

- 行政との連携機会の拡大と、がん登録データによる地域の罹患傾向の共有
 - 意見交換を通じた課題の共有と、早期介入の重要性への理解の広がり。
- 肺がんの診断精度向上を目的とした現状分析資料の作成
 - CT検査の有効性の再認識と、早期発見・早期治療の必要性の発信。
- 医事データを活用した医療費負担の現状把握と費用軽減
 - 定期的な検診・CT検査の重要性と、経済的負担の軽減につながる可能性の再認識。
- 若年がん患者の傾向分析と、支援体制の情報共有
 - 行政との協働による体制整備に向けた課題整理と今後の検討のきっかけ。

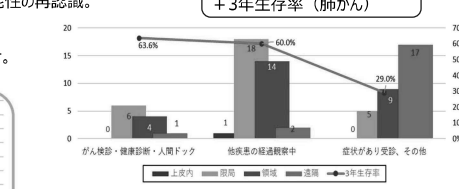
病巣のひろがりと3年生存率 (全部位)



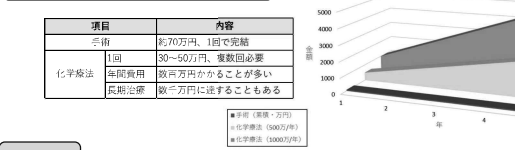
肺がんの診断状況



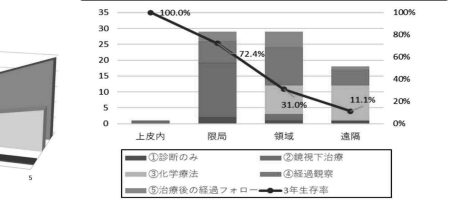
発見経緯ごとの進展度別件数 + 3年生存率 (肺がん)



がん治療にかかる累積医療費(5年間)



進展度ごとの治療内容別件数 + 3年生存率 (肺がん)



結語

がん登録は、地域で暮らす一人ひとりに寄り添い、がん診療の質を高めていくための第一歩。今回の取り組みを通じて、がん登録実務者としての役割と、地域におけるがん情報の活用の可能性を改めて実感。地域の状況を把握し、多職種や行政との連携を深め、がん診療に繋がる支援や情報提供の工夫を行っていく。